



近大行くなら

マナビズム

近大×マナビズム
過去問解説2023
テキスト **現代文**

近大現代文の特徴と対策(概要)

全体像の把握が合否の鍵を握る。

全体像

	出題内容	問題数	配点	理想	時間配分
一	主に評論	主に 13問	40点	30点	20分
二	古文	主に 8問	30点	23点	19分
三	主に随筆	主に 8問	30点	22点	19分
合計		29問	100点	75点	58分

配点の割合



近大現代文の学習優先度 トップ3



論理的読解法の習得



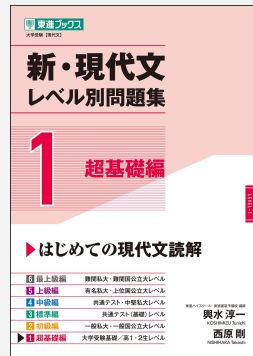
漢字と語彙力



頻出テーマの理解

オススメ
1

新・現代文レベル別問題集1～4



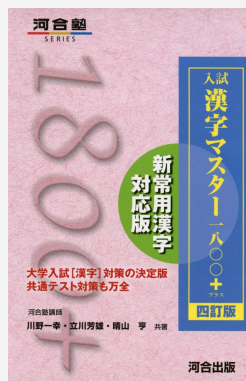
〔目標習得期間〕6～8ヶ月

〔学習のポイント〕

- ① 映像授業で論理的な思考法を学ぶ
- ② 時間無制限で学んだ論理的読解法に挑戦してみる
- ③ 解説を読み、文章の構造を把握した上で、もう一度読み直す

オススメ
2

漢字マスター1800



〔目標習得期間〕6ヶ月

〔学習のポイント〕

- ① 1日〇ページと決め、継続的に学習する
- ② 読み書きだけでなく、意味も理解する
- ③ 例文の文章の意味が理解できるか確認する

オススメ
3

現代文読解のテーマとキーワード



〔目標習得期間〕6ヶ月

〔学習のポイント〕

- ① とにかく繰り返し読み込む
- ② 時頻出テーマについて自分の言葉で説明できるようにする
- ③ 頻出テーマの関連語句を覚える

本書の予復習法

① 予習をする

時間制限は45分で解く。予習の際に選択肢を正解・不正解の根拠を明確にしておくこと。

② 授業を受ける

授業を受ける際は質の高い復習をするためにメモをしっかりとること。またメモをする際は必ず動画を止めること。予習した際の読み方・解き方と解説との違いを確かめる。

③ 復習をする

最も重要なステップ。目標は講師と同じように解けるようになること。そのために、まずは予習の際の目の付け所と解説の違いを明確にする。そして、文章を最初から講師の解説を再現するように、人に教えるようなイメージで解き直す。

〔一〕次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

何処へ行っても否応なく写真に出会わざるをえないということと、その写真の大群がどれも一様に——人も花も山も鳥も物体も何もかもが等し並みに——あのツルツルの表面の中から極めて人工的な「思わせぶり」を持って「お目出度い笑み」と「秋波」を放散していることのために、^①私は今日の写真というものにウンザリしている。見ないようにしている間はそれで済むのだけれども、一度現代社会での写真の存在形式が如何なるものであるかを考えて見ようとして注意して見たりすると、その過剰とその均質とそのツルツルとその模造品の人工性とに殆ど堪え難い思いを抱かざるをえない、という事態になる。その思いが昂じて来ると、否応なしにこちらの視覚を目掛けて放射能のように飛び込んで来る^②人工的「秋波」の群れの、コウガク的な強制力を全体主義の現代的形式の一つと見做したくなり、そうすると、眼をつむるか盲になるかする以外にはその存在としての強制力から自由になる道は無いとさえ思うようになるのである。

つまり、私たちの日常生活の空間に張り廻らされている写真の大群は思考の対象として扱ってはならない余剰品——それにしては余りに多い余剰——なのであり、そうして置けば別に飛び掛かって来るものではないから、身の安全には関わらないで済む物言わぬ視覚的騒音なのである。省略を含まぬもの、抽象を経ないもの、それ自体として過剰そのものである写真が、至る所に過剰に張りめぐらされているのだから、こちらが「見過ごし」たり「眼を閉じ」たり「盲になつ」たりすることによって、省略をほどこさなければ生きてはいけないのである。眼は物を見るために存在する。人を見る場合でも其の人の上に現れたモノゴトを或は出来事を見るために存在している。しかし、神経^③ケイトウから切り離された眼球構造（すなわち疎外された眼球装置）としての写真器は、物を写し出すのではなくて、物が元来持っている材質感を完全に欠いたツルツルでペラペラの表面に、反射光を一杯に漲らせている視覚的秋波を、影絵の周囲に附け加えて八方に放散する。それはもはやベンヤミンの言う「物の痕跡」などではなくて逆に物影の周りに余計な光りを無数に着けることによって、影の持つ陰画的象徴性を圧殺して了った「輝きの模造品」なのである。つまりは模造真珠でありマネキン人形の

平面版に他ならない。百貨店のショウ・ウインドーを覗く人はマネキン人形を見詰めはしない筈である。彼はマネキンに着せられた着物の方を見るのである。しかるに今日の日常空間を埋め尽くしているペラペラでピカピカの平面としてのマネキン人形は、「この人を見よ」と言つて自分自らを指さすように「作られた魅力」を周囲に向けて発散している。全き対外志向であり完全な内面性の欠如である。こちら側が省略的無視をほどこななければならない所以はそこにある。その点を認識しない時、「写真はシュールレアリスムを地で行くものである」という忖度的意見が生まれて来る。しかしシュールが生んだ一つの大きな成果は、大胆な抽象画の世界なのであった。それは物が含む非核心的な要素を払い落とし省略し切つて、単純無類な線や形や色の中に複雑なる物の構造を要約した。シン・ショウや想像世界についても同様の対処をほどこした。だから抽象画に対する時私たちは、視覚的騒音に対するのとは逆に、それが持つ反伝統性や表面的現実への不意打ちなどの「意外性」をガン^dチク^dある本質の表出として落ち着いて眺めることも出来るし、「分からんなあ」と言つて考え込むことも出来るし、邪魔にはならない必須的刺激として傍に引き寄せることも出来る。写真は自らはA出来な^い。B^を含まない。オブジェでもない。それは現代都市的社會が生んだ視覚的騒音なのである。綺麗な人工的輝きを過剰に放射する製品なのである。

私たちの日常生活の行動範囲を至る所で取り巻いている写真の壁はそのようなものである。それはまだしもこちら側から省略できるものであった。しかし私たちが一步でも制度としての社會に關与した途端に写真は支配的な強制力を發揮する。社會生活の境い目毎に^⑧「關所」の首実檢として写真が存在しているのである。入学や入社における写真、出入国における写真、「正常社會」と犯罪社會の區別を司る写真、それらはすべて制度としての社會に必要不可欠な「境界」を「境界」たらしめている「サエの神」なのである。それらの写真を、例えばソングのように、身分証明書、旅券、アルバム、お尋ね者捜査などの個別の場合として羅列したのでは、写真の普及度の広さは分かつてもその社會的性格の核心は分からなくなるかも知れない。それらの写真は、制度としての社會の境界を押さえることによって、制度的社會そのものの成立を保障する基礎となっているのである。社會を制する者は原始時代以来必ず境を制した。境を制した時「10」が生まれるのであった。「天孫」は辺境熊襲の地に「降臨」することによって「天孫」となる。そうして今では境は至る所に複雑な入り組み方をして存在している。国のド真ん中に在る空港も、それが国際空港である限り其処は国境なのであり、だ

からこそ或る国の如きはその空港に立っている貧弱な兵隊が「国境警備隊」に属しているという有様なのである。兵隊など立たせていない国でも間違ひなく国際空港には国家公安の直接管理が行き届いていることであろう。国境が地図上の国境以外に国のド真ん中にもう一つも二つも出来ているように、制度的社会の「部局」や「分室」や小組織毎に境が数多く生まれているのが、今日のいわゆる複雑社会である。その境を制する者がその組織の「中枢」なのである。そうしてその境の制圧を効率的に保障している物が写真なのである。現代の複雑社会は写真効率の増大のお陰によつてその回転を保障されている。こうして④写真は制度としての現代社会の成立基礎となつている。写真の上に立つ機構的制度。それが今日の支配的な社会の姿なのである。あの、ペラペラの、ツルツルした紙切れの上に膨大な機構が聳え立っている、というのだ。物質感の極めて薄弱な紙切れの上に聳立する巨大機構、その不安定感が現代的社会意識の不安感とニヒリズムの根本条件の一つを為してはいないだろうか。

にもかかわらず、或はそうだからこそ、私たちは所属制度の市民権を証明して市民の權益にあずかなければならなくなつた時には———そうしてそういう場合はしよつちゅう訪れるのであるが———そういう時には、好むと好まざるとに關わらず、否応なしに、恥ずかしくもなく己れ自らの肖像写真を麗々しく撮つて貰い、それを麗々しく提示して恬として恥じることを知らないのである。「必要」とは怖いものである。社会制度上それが必要だというだけで忽ちにして私たちの羞恥の心は一掃されて了う。せめてもの慰めはその肖像がペラペラだということに在るが、しかし自分の姿がペラペラであることに對しても何の屈辱も感じない程「必要」の前に自尊心を失つているのである。そしてその両者は———含羞の心の喪失と内面的自尊心の消滅とは———同じ事態の現れなのである。すなわち、かつてプロッホが言つたように、羞らいや人見知りは「自分自身の裡に止どまろうとする」態度であつて、だからこそそれは疎外に對する本能的なそして目立たない反対行動なのであり、その時には、自からは止どまるに値する何かを備えているという臍氣な感覺（自尊心の控えめな萌芽）が無自覚に存在しているからである。含羞の心の喪失も内面的自尊心の消滅も、かくて、⑤疎外態となり果てた私たちの現代的函数化の現れに他ならない。私たちは制度内の權益に与るために自から進んで繰返し疎外態になり続けているのである。精神の内面性を保障する最後の砦としての「含羞」と「秘やかな自信」とが二つながら此處に無慘に崩壊している。

現代における写真の社会的存在形態とその現象学は粗筋においてそのような構造を持っている。それ以外にも、写真の社会学とそれがもたらす精神史的变化について言うべき事は多いが、それらは折に触れて想い起こせばよいであろう。要は、以上のような骨格を持った社会的現実としての写真の中で――その真つ只中で――、起死。カイセイの任務を負って、毒を薬に変え、人々の羞恥心を呼び戻し、批判的精神を蘇生させ、そうすることによって、制度的社会機構の「鯨の腹の中」に置かれていながらも、その中に「異物」としての相互主体的な社会関係を、小さいながら生み出そうとして、写真器を逆武器として用いなければならないのが、現代写真家である筈なのである。

（藤田省三『「写真と社会」小史』による）

問一 二重傍線部 a～e の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各項の中からそれぞれ選びなさい。

a		b		c		d		e	
1	カンコウ旅行	1	意気トウゴウ	1	時代コウシヨウ	1	チクサン農家	1	カイキョの達成
3	サンコウ文献	3	トウケイ資料	3	校歌セイシヨウ	3	カイチク計画	3	カイシンの出来ばえ
2	ケイコウと対策	2	イットウ両断	2	森羅バンシヨウ	2	チクジ通訳	2	質問へのカイトウ
4	家内コウギョウ	4	一騎トウセン	4	論功コウシヨウ	4	ビチク食料	4	道路法のカイセイ

問二 傍線部①の理由として、適切でないものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 写真が日常空間において過剰に氾濫しているから
- 2 写真は物が元来持つべき材質感を欠いているから
- 3 写真がどれも等しく均一な対象を扱っているから
- 4 写真は視覚に対して強制的に働きかけてくるから

問三 傍線部②の説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。

- 1 自然の摂理に反する模造的な美の形象
- 2 人々の関心を引くための表層的な媚態
- 3 澄んだ波のように無表情な視覚的虚構
- 4 わざとらしい笑みを湛えた画像の波動

問四 空欄 A B に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次の中から選びなさい。

- | | | | | | |
|---|------|------|---|------|------|
| 1 | A 要約 | B 刺激 | 2 | A 抽象 | B 省略 |
| 3 | A 表出 | B 伝統 | 4 | A 沈黙 | B 内面 |

問五 傍線部③の例として、適切でないものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 旅行先における記念写真の撮影
- 2 入国審査時のパスポートの提示
- 3 入学願書を出す際の写真の貼付
- 4 写真を用いた身元不明者の同定

問六 空欄 10 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 社会
- 2 国境
- 3 神話
- 4 中央

問七 傍線部④の理由として、最も適切なものを次の中から選びなさい。

- 1 国際化が進むにつれて複雑化した国境の警備のためには写真の検閲や審問が欠かせないから
- 2 複雑に入り組んだ社会的な境を越えるためには写真による自己同一性の証明が不可欠だから
- 3 社会の内側にも数多く存在する境界の監視は写真の撮影によって効率的に行われているから
- 4 現代社会の機構的制度は写真の普及とともに増大した管理組織によって支配されているから

問八 傍線部⑤の説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。

- 1 肖像写真を撮ってもらうことに羞恥も屈辱も感じないのは私たちの疎外感が麻痺している現れである
- 2 社会からの疎外に抵抗する個々人の反対行動が消滅した帰結として人間の内面性が崩壊してしまった
- 3 人間が本来あるべき精神性を手放して制度に支配された結果として必然的に羞恥心や自尊心も失った
- 4 制度的な必要性に屈伏したことによって私たちは自分自身を孤立させるような行動を繰り返している

問九 本文の内容と合致しないものを、次の中から一つ選びなさい。

- 1 現代社会における写真の存在形態は全体主義の一つの形式と見做したくなるほど抗いがたい強制力を有している
 - 2 写真はそれ自体として過剰そのものである上に過剰に流通しているので人間の視覚の側で省略する必要がある
 - 3 現代社会における内面性の崩壊は疎外された眼球装置としての写真器が人間の視覚に取って代わったことによる
 - 4 写真の社会的現実の只中でその存在様態を逆手にとることで批判的精神を喚起するのが現代写真家の役割である
-

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

自然がもつとも輝くとき

その最初の緑は黄金

その最初の葉は花

けれどそれはほんのひととき

葉はただの葉に変わり

エデンの園は悲しみにしずむ

暁は色あせて昼の光に

黄金の輝きは残らない

アメリカの国民的詩人と言われるロバート・フロストの詩“Nothing gold can stay”の一節である。この詩を暗誦しているのは、ポニーと呼ばれる一六歳の少年。地元のハイスクールに通っている。この詩に耳を傾けているのは、ジョニーという少年だ。黒い髪と琥珀色の肌から見ると、ラテンアメリカ系であろうか。二人が立っている場所は、町から遠く離れた荒地にある古い教会の廃屋のそば。時は暁。真っ赤な朝焼けがさえぎるもののない地平線の上いっばいに広がっている。一本の大きな木が真っ赤な空にくっきりとした黒い影を浮かび上がらせるその下に、二人は立っている。

「きれいだな……金色と銀色に光ってるみたいだ。でもすぐに消えちゃうけど」。ジョニーがつぶやく。ポニーが思わず冒頭の詩を口ずさんだのはこのときである。どこかで習った詩。意味がよくわからないから、かえって覚えていた詩。その一つ一つの言葉は、まるでそのまま、この朝焼けの輝きの中に溶け込んでいったかのように、^①赤く染まった空を突然別の何かに変える。「詩を聞くまでは気づかなかった」何かに。

「不思議だな、詩を聞いて初めて朝焼けがこんなにきれいだって気づいたよ」。

一九八三年、フランシス・コッポラ作の『アウトサイダー』の一場面である。ここには三人の少年が登場する。②ポニーとジョニーとダラス。ポニーは両親を事故でなくした後、二人の兄と暮らしている。三人の中で、唯一学校生活をまともに送っている。上の兄は夜遊びから帰ったポニーを叱って殴りつける暴君型、下の兄は物分りのいいやさしいタイプだが、両方とも、ポニーを大事に思っていることは観客にはすぐにわかる。ジョニーは町外れの貧しい掘っ立て小屋に両親とともに住んでいる。この両親はいつもいがみ合っており、小屋からは二人ののしりあい、物を投げる音がしょっちゅう聞こえている。ジョニーがほとんど捨て子の状態であることは、げんかに夢中の両親が夜遊びから帰ったジョニーに気づきもしないことから知られる。ダラスは、三人の中で一番の兄貴株である。彼は刑務所暮らしを経験している無頼者で、町の酒場の二階に住んでいる。彼の家族のことは何も語られもほめかされもしない。兄たちの保護の下にあるポニーや、両親から無視されながらも両親の家に住むジョニーと比べたとき、最初から単独者として登場するダラスは、三人の中では一番「大人」に近い存在に見える。実際、映画の前半では、ダラスはポニーとジョニーをリードする頼もしい兄貴分としてふるまう。ポニーと一緒にのときに抗争相手のグループに襲われて、ジョニーは誤って相手をナイフで刺して殺してしまふのだが、そのとき、二人が真っ先に駆け込んだのはダラスのところだったし、ダラスは躊躇なくすぐに二人に金と衣服を与え、隠れ家に逃がしてやるのだ。

冒頭に述べたのはこの隠れ家での一シーンである。この隠れ家でのシーンには、二つの文字テキストが登場する。その一つがああ詩であり、もう一つはポニーの愛読書である『風とともに去りぬ』である。隠れ家での生活用品を買出しに出かけたジョニーは、パンやミルクやタバコと一緒にこの一冊の本を買ってくるのだ。「暇なときに読んで聞かせてくれ」と言つて。ポニーの朗読に耳を傾けるジョニーの姿がある。コッポラがこの二つのテキストに大きな意味を与えていることは明らかである。暗誦された詩の言葉と、一冊の書物。これらとの出会いが、三人の中で最も幼く頼りなかったジョニーを最も③成熟した大人にするのである。もっともそれは大人として生きるのではなく、大人として死ぬ、という形でしか成就されないのだが。三人は火事に巻き込まれた幼い子どもたちを救って一躍町のヒーローになる。最も重いやけどを負ったのはジョニーである。重症のベッドで彼が求めたものは、『風とともに去りぬ』の本だった。ポニーはそれを病院の売店で買い求める。ジョニーが決して読むことのできなかったこの本は、遺品としてポニーに残され、そのページの間には、

看護婦に書き取ってもらった手紙が挟まっている。

「二四歳で死ぬなんて早すぎるよ。もっと生きていたかった。でも、子どもたちを助けてよかったよ。子どもは黄金なんだ。ポニー、いつまでも黄金のままできてくれ。ダラスにもあの朝焼けを見せてやってくれ。あの朝焼けの美しさを教えてやってくれ」。

もっと生きていたかった……。かつて、「殴られるほうが無視されるよりはましさ」と言い「死んでしまいたいよ」とポニーに訴えていたジョニーだったのだが。自分のこの変化の源をジョニーはあの黄金の朝焼けに見出している。だからこそ、ダラスにそれを伝えたいのだ。しかしダラスはこの黄金の輝きを見ることができないままに死んでいくだろう。ダラスはジョニーの死の不条理さに耐えることができない。せつかくヒーローになったのに、惨めに死んでいくなんて。子どもを助けて何になるんだ。彼にとってジョニーの死はヒーローになりそこなったアウトサイダーの惨めで絶望的な結末でしかない。空砲のピストルをかざして強盗を働き、警官に撃たれて死ぬダラスの死は、ついにこの世界との意味あるつながりを経験することなく死んでいく「子ども」の死である。ダラスが警官に追い詰められ撃たれたとき、誰かが叫んだように。

「まだほんの子ども just a kidなのに！」

物語前半でのダラスの大人っぽさと、その死の子どもっぽさ（彼は子どものように泣きながら死んでいく）。④この対比が私たちに哀切さをかきたてずにいない。かくしてコッポラは、一片の短い詩と一冊の書物とを挟んで二つの対照的な死を描くのである。世界と希望につながれた死と、無意味でひたすら悲しい死と。映画を見終わって私の心にいつそう深く残ったのは、ダラスの無垢にしておろかな哀れさの方である。⑤ジョニーのいささが寓意的な死はこの哀れさを際立たせる装置であったのか、とさえ思われる。しかし、書物の世界に触れないままに逝ったダラスの死が、これほどまでに絶望的で無意味な哀しさに満ちているのは、なぜだろうか。文字や書物と無縁なままに、「大人」としての意味ある生と死をまっ

とうしてきた人々はたくさんいるだろうに。こう問うた時、私たちはダラスとジョニーをかこむ世界の^⑥荒涼たる風景にあらためて気づかざるを得ないのだ。そこには、世界とは何か、人間とは何か、生きることの意味と希望とは何かを、子どもたちに向かって語る大人は存在しない。子どもたちと生活をともにし、文化を共有しあう身近な大人たちの、こうした語りによってこそ、子どもたちは世界との間に生きた絆を築いていくことができる。ポニーにはかろうじてそうした大人がいた。二人の兄は、彼ら自身やつと少年期を脱したばかりとはいえ、亡き両親の代わりをせいっぱい果たそうとしている。何よりもポニーは両親を中心とした家族の思い出（物語）を身体の中に所有している。ポニーが三人のうちただ一人生き延びることができたのは、こうしたものの力のためであって、詩や小説の言葉のおかげではない。三人のうちで彼だけがこうした文字の世界に親しんでいたにもかかわらず。文字の力を最も必要としたのは、生きた世界との絆を剥奪された、捨て子のようなジョニーと孤児のようなダラスの方である。彼らにとって文字は、保護者としての大人が語る、生きた言葉の代補であった。

しかしまた、こうした代補を必要としているのは、ただダラスやジョニーだけではないことに再び私たちは気づく。私たちが生きている世界はもはや、かつてのような（良い意味でも悪い意味でも）濃密な共同体的語りに満たされた世界ではない。幾世代にもわたって語り継がれてきた物語のうちで生まれ、その中で生き、その中で死んでいくことのできる世界は遠い定かならぬ記憶のうちにしか存在していない、そうした時代を私たちは生きている。すぐに薄れていく朝焼けの赤い空に、永遠へとつながる黄金の輝きを見せてくれるものは、もはや、長老の語る共同体の創世神話ではなく、会ったこともない詩人が残した⁷だけなのだ。これらの言葉は、共同体にしっかりとつながれ固定された言葉とは異なり、^⑦時空の中をどこまでも浮遊して、たまたま出会った者によって捕まえられ、その魂の中に思いもかけない新しい物語を生み出す。「詩は書いた詩人のものではない。それを必要とする者のものだ」と、映画『イル・ポストイーノ』のなかで貧しい半文盲の青年マリオが言うように。世界の孤児である私たち一人一人が、何らかの代補としての⁷を「必要とする者」なのだ。

（森田伸子『文字の経験―読むことと書くこと思想史―』による）

問一 傍線部①の説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。

- 1 暁のひととき美しく黄金に輝く自然本来の力に気付かせた
- 2 頼りがいのある立派な大人に至る道を浮かび上がらせた
- 3 暗い過去は忘れて前向きに生きようという決意に至らせた
- 4 世界や人生に対する深い気付きのようなものをもたらした

問二 傍線部②の説明として、適切でないものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 三人の中で家族から大切にされていることが描かれているのはポニーのみである
- 2 殺人を犯したジョニーはダラスの助けを借りつつポニーとともに隠れ家へ逃げた
- 3 三人は幼い子どもを火事から救ったがジョニーはその際に負った火傷のせいで死ぬ
- 4 ポニーの暗誦した詩はジョニーの願いにもかかわらずダラスには理解されなかった

問三 傍線部③はどのようなものとされているか。適切でないものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 自然の美しさに正しく生きる指針があると知っている
 - 2 幼い子どもは死の危険から守るべきと分かっている
 - 3 とても困難な状況に陥っても捨て鉢な態度を取らない
 - 4 世界と自分自身との意味あるつながりを経験している
-

問四 傍線部④はどのようなことか。最も適切なものを次の中から選びなさい。

- 1 刑務所暮らしを経験したならず者の少年も本当は警官を怖がる子どもだったと明かされること
- 2 仲間の犯した殺人には平然としている大人びた少年が仲間の死には動揺を隠せないこと
- 3 経験を積み大人になりかけていた少年が大人の暴力によって無謀な死に追い込まれること
- 4 大人のようにふるまっていた少年が不条理な死に触れて無垢でおろかな存在として死ぬこと

問五 傍線部⑤の説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。

- 1 詩や書物に触れ教養を身に付けることが大人への道筋だという教訓じみた描写の死
- 2 詩や書物の言葉が生や死に意味を与えるという考えの託されていることが明白な死
- 3 人を世界や希望とつなぐのは詩や書物において他にないことが神話的に表現された死
- 4 詩や書物の言葉に啓発されて大きな精神的成長を遂げた少年のややドラマチックな死

問六 傍線部⑥の説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。

- 1 世界との絆を築くのに必要な物語を語ってくれる大人が身近にいない
 - 2 文化を共有する大人から読み書きの手ほどきを受けることができない
 - 3 身体の中に所有する物語が貧弱なために世界を生き抜く力に乏しい
 - 4 生きた言葉の代補としての詩や小説の言葉に触れる機会が得られない
-

問七 空欄 7 (二箇所ある)に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選びなさい。

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|------|---|-------|
| 1 | 美しい物語 | 2 | 文字の言葉 | 3 | 詩の響き | 4 | 言葉の記憶 |
|---|-------|---|-------|---|------|---|-------|

問八 傍線部⑦の説明として、適切でないものを次の中から一つ選びなさい。

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 時間的にも空間的にも隔たった受け手に届く |
| 2 | 形作られた時点では言葉の受け手が明確ではない |
| 3 | 作り手の思いを受け手の心中深くに刻み込む |
| 4 | 受け手に応じたあらゆる解釈に開かれている |
-

解答一覧

問題番号	解答番号	正解	問題番号	解答番号	正解
一	1	1	三	1	4
	2	3		2	4
	3	2		3	1
	4	4		4	4
	5	2		5	2
	6	3		4	1
	7	2		7	2
	8	2		8	3
	9	1			
	10	4			
	11	2			
	12	3			
	13	3			
二	1	4			
	2	4			
	3	2			
	4	2			
	5	4			
	6	4			
	7	2			
	8	2			



近大行くなら

マナビズム



マナビズム 校舎一覧

大阪府

上本町校
高槻校
豊中校
茨木校

北千里校

堺東校
枚方校
天王寺校
大阪梅田校

兵庫県

西宮北口校
神戸三宮校
姫路校

京都府

四条烏丸校

滋賀県

草津校

兵庫県

名古屋駅前校
豊田校

オンラインコース

無料受験相談
申込受付中

